

「演技と演出のレッスン」 鴻上尚史 白水社 より

男性は「男」を、女性は「女」を演じてください。

男 「喉の調子がよくないなあ。やっぱり、昨日、カラオケなんか行くじゃなかった。断れないのが、俺の弱さだよな。でも、いい感じだったし。役者は、いっぱい、恋愛すべきだって、誰か言ってたよなあ。芸の肥やしってやつか。これで、オーディションにも受かって、あのコともうまく行けば、言うことなしだなあ。いかん、いかん。そんなこと、考えてる場合じゃないんだ。1分間の自己紹介。1分間って意外と長いんだよなあ。自分で自分のこと言うなんて、なんか、やだよなあ。えっ？河合は、僕ですが……。電話？すみません。……もしもし、……なんだよ、なんでこんなところまで電話してくんだよ。どうして、分かったんだよ。えっ？電話して聞いた？やめてくれよ。えっ？知らないよ。分かんないよ。だから、分かんないって！（周りに）……すみません。だから、何時に終わるかなんて分からないから、約束できないの。もう、切るよ。みんなの迷惑になるから。連絡するから。じゃ。……すみませんでした。……まいったなあ。どうして、こんなことになるのかなあ……いかん、気分を変えよう。すみません。ちょっと、外出ていいですか。はい。すぐ帰って来ます。……1分間の自己紹介。はじめまして。私は、河合陸司と言います。今まで、舞台を3本ふんでいます。演じることが大好きで……あ、すぐ行きます！すみません！」

女 「喉の調子がよくないなあ。やっぱり、昨日、カラオケなんか行くんじゃない。断れないのが、私の弱さよね。でも、いい感じだったし。役者は、いっぱい、恋愛すべきだって、誰か言ってたな。芸の肥やしてやつか。これで、オーディションにも受かって、あの人ともうまく行けば、言うことなしだね。だめ、だめ。そんなこと、考えてる場合じゃない。1分間の自己紹介。1分間って、意外と長いんだよね。自分で自分のこと言うなんて、なんか、やだなあ。えっ？河合は、私ですが……電話？すみません……もしもし、……なんなの、なんでこんなとこまで電話してくるの。どうして、分かったのよ。えっ？電話して聞いた？やめてよ。えっ？知らないよ。分かんないよ。だから、分かんないって！（闇りに）…すみません。だから、何時に終わるかなんて分かんないから、約束できないの。もう、切るよ。みんなの迷惑になるから。連絡するから。じゃ。……すみませんでした。……まいったなあ。どうして、こんなことになるのかなあ……。だめ、気分を変えよう。すみません。ちょっと、外出ていいですか。はい。すぐ帰って来ます。……1分間の自己紹介。はじめまして。私は、河合良子と言います。今まで、舞台を3本ふんでいます。演じることが大好きで……あ、すぐ行きます！すみません！」

ミュージカル「FAME」より

僕は単なるテレビタレントじゃなくて、本物の俳優になりたいんだ。

スタニスラフスキーは読んだことある？

この本の中に、「俳優は魔法の”もしも”を使いこなさなければならない。

もしも、イフ。イフとは何か？

イフの瞬間、俳優は現実から仮の世界の人間になる。

その世界は俳優が作りだすもので、そして信じることによって魔法の瞬間に変わる。」

僕はそんな魔法のようなステージに立ってみたいんだ。

どんな台詞でも試してみたい。

例えばブレヒト、ハロルド・ピンター。

ギリシャ悲劇からシェイクスピア、現代劇まで。

シリアス、コメディ、感じたままに演じたい。

いつかこのマジックで舞台を揺るがしてやるんだ。

ほら、鳴り止まぬ拍手が聞こえてくるだろう。

ミュージカル「FAME」より

先生、金曜日の授業欠席したいんですけど。

ウエストサイドのオーディションがあるんです。

私、アニタ役で受けようと思って。

私にぴったりだと思いませんか？

え？どういう意味ですか？

「受けちゃいけない」って。学校の規則？

・・・そんな。

だってこの学校は有名にさせるために教えてるんじゃないんですか？

先生！

(先生いなくなる。)

いいわよ、絶対に後悔させてやる。今に見てらっしゃい。

私はカルメン・ジョーンズよ。いつか私は輝くスターになる。

ブロードウェイに、ハリウッド。私が出れば全て大ヒット。

オスカーにトニー賞間違いなし。

みんなが私を見てこう叫ぶわ。

「ほら、カルメン・ジョーンズよ。本物のカルメン・ジョーンズよ。」

ミュージカル「フェーム」より

カルメン 私がいなくなれば先生方も大喜びね。
問題児がいなくなつて。
ねえ、シュロモ、この学校の問題ってわかる？
有名にさせるために教えているのに、
オーディションは受けさせてくれないし、
チャンスはことごとく潰すし。
...私は自分を作ってるって。
ずっと感覚の訓練やらされているのよ。
もっとまじな授業できないのかしら。
まあいいわ。
それももう終わり。
明日のホームルームが始まるころには
私は飛行機の中。
夢の国に向かって旅立つの。
窓の外見てよね。
私も手を振るから。
あなたはたくさんものを持っているわ。
すぐにわたしのことなんか忘れちゃうわよ。
あなたのことは今だって好きなのよ。
ねえお願い。祝福してよ。
お願い。

ミュージカル 「フェーム」 より

シュロモ カルメン、学校やめるんだって？
...チャンスだって？
どこの誰かもわからないような奴の誘いに乗って
本気でロスに行くつもりかい？
僕にはペテン師にしか見えないよ。
全部投げ出して、本当にそれでいいのか。
君が欲しがってるのはあいつがくれる白い粉だろ。
放課後君が彼のリムジンから、
フラフラ降りてくるのを見たよ。

君が抱えてる問題はね、いつも急ぎ過ぎるんだ。
手っ取り早い成功を求めているんだ。
バンドはどうなるんだ？
君の才能を本気で認めているのは僕の方なんだ。
君の素敵な詩に僕が曲をつける。
いつか僕たちの曲が町中に流れるようになる。
信じてるんだ。
運命で結ばれているのはあいつじゃない。
僕たちなんだ。